

吹田に象がいた

象の化石が千里ニュータウンから出土

70年万博で、千里に象が来た
アケボノゾウが、200万年ぶりに里帰りしたのかも

大昔、千里丘陵は平地で 水辺が広がり、「生物の楽園」だった

吹田・千里に象がいた……。えっホンマ？ちょっとビックリ、そしてロマンたっぴりの話であるが、実は象の化石が千里ニュータウンから出土していたのだ。問題の化石は、約200万年前、アケボノゾウの臼歯の部分。

象の化石を発見したのは、本紙裏表紙の写真を提供してくださっている、吹田市佐井寺在住の奥保肇さん。奥さんに当時の話をつかかった。

化石を発見したのは 佐竹公園

「化石を発見したのはね、昭和22〜23年頃でした。場所は現在の佐竹台のぼだい池附近です。正確に言くと、佐竹台3丁目9番付近になります」。

昭和23年頃といくと、まだ千里ニュータウンはできていませんね。

「全く人の住んでいない、竹林と田んぼでした。あの辺りは私の親父が大正時代に切り開いた土地です。そこを私が引き継いで田んぼをしておりまして、毎年米を作っていると、田んぼから鉄分が失われていくのです。それで『客土』といひまして、別の場所から土を入れて田んぼを整えます。それで問題の土地、あそこは雑木林でしたが、を掘っていたらゴツンと。最初は石かな？化石かな？何やるこれは、という感じでした」。

するとすぐには博物館などに持っていかれなかった？



発見者の奥保肇さん

「当時のお役所は忙しそうでしたね。学問を採求する余裕などなかったのと通いますか。みんな食べていくのに必死で。それで箱に入れて保存してましたんや。いまから思ったらようあの時捨てへんかったな、と」。

昭和35年にも出土 象の化石と違うか？

「ではいつ、象の化石と分かったのですか？」

「昭和35年に岸部からも出

土したんです。正確には岸部の方が、庭の工事のために土を買った。その土の中から下



当時の佐竹台ぼだい池周辺、この竹やぶから象の化石が出土（奥保肇さん撮影）

あごつきの臼歯が。調べてみたら、その土は片山公園を整備するときに出たもの。今の出口町あたりからも象の化石が出たんです。そのニュースを聞いて、「自宅のものも象の化石と違うか」と鑑定してもらったんです」。

捨てなくて良かったですね（笑）。それでアケボノゾウというのほ？

「昔はアカシソウと呼ばれていました。最近改名されました」



現在の佐竹公園。きれいに整備されモニュメントが



た。氷河期に大陸から渡ってきたと考えられています。ステゴドンソウの一種で、200万年前から70万年前頃まで栄えていたようです。現在の象よりずっと小さくて馬くらいの大きさですよ。この象がいた頃の千里は平坦な土地で、水辺が広がりメタセコイヤが繁殖していたようです。当時の千里ニュータウンは楽園のような、住みやすい所だったのでしようね」。

象がいた頃は平地

象がいた頃は 平地だった千里だが

現在、佐竹台、ぼだい池のほとりには、かつてここに象がいたことを示す案内板が設置されている。そういえば、1970年の万博で、千里に象が来てパレードした。もしかすると、あの時の象はアケボノゾウの血を受け継ぎ、200万年ぶりに里帰りしてくれたのかもしれない。